

沖繩から学ぶ

森 才三

1. はじめに

本年度、筆者が担当した中学校三年の総合的な学習の時間「LIFE」は、「沖繩から学ぶ」をテーマとして実践した。「沖繩から学ぶ」は、沖繩を一つの地域社会として捉え、沖繩に関する教科横断的な内容を教材とし、探求的活動をさせながら、問題を解決する力や探求する力を育もうとするものである。

沖繩を題材とするこの実践を通して、生徒が「学ぶ」ことを期待しているものは、次の3つである。

- (1)問題を解決したり、探求したりする方法
- (2)日本列島社会を説明する概念的知識
- (3)世界の諸課題を説明する本質的概念

(1)は「自ら学び、自ら考える」ための方法の習得であり、思考・判断する能力の育成をさす。(2)は「日本列島社会は多様な地域的差異と個性をもっている」という内

容的な知識の習得である。これは、自己のポジショナリティの再考に深い示唆を与えるものであり、グローバル化が進む中で「自己の在り方や生き方の自覚を深める」ための基礎となりうる概念的知識である。(3)もまた、内容的な知識の習得であるが、この知識は世界の諸問題を概念化したもの（「共生」「稀少性」「変化」「文化」など）であり、グローバルなもの見方・考え方の枠組みを構成する本質的な概念的知識でもある。

以下、その実践の概要を報告する。なお、本実践には、当校が現在カリキュラム研究開発中である6ヶ年一貫の総合的な学習の時間における中学校三年の「LIFEⅢ」で扱う地域の一つとしての可能性を、内容的に模索するという意味合いもある。したがって、本実践は、総合的な学習としては、学習方法よりも内容に傾斜し、生徒中心より教師主導になっていることは否めない。

2. 「沖繩から学ぶ」学習計画

本実践は、次表に示した計画により行った。

小 単 元	学 習 活 動	学 習 の ね ら い
(1) 探求の準備	<input type="checkbox"/> 沖繩の地理と歴史の概略について学習する。 <input type="checkbox"/> 地理：白地図（南西諸島と沖繩本島）で作業学習 <input type="checkbox"/> 歴史：「琉球・沖繩史」の時期区分年表を作成する NHK人間講座「沖繩からアジアを見る」を視聴する。（2～6回）	<input type="checkbox"/> 環東シナ海における沖繩の位置づけと沖繩本島の地理的特色をおさえる。 <input type="checkbox"/> 「琉球・沖繩史」の節目をおさえる。
(2) 探求1	<input type="checkbox"/> 自然・伝統芸能・食文化・歴史・平和・産業・くらしの7つのテーマ領域について、資料集などを利用して調べ学習を行う。 （資料集；沖繩コンベンションビューローの資料） <input type="checkbox"/> 『アイランド・クエストIN沖繩&屋久島』に参加する。（ http://www.wnn.or.jp/wnn-s/quest/ ） <input type="checkbox"/> 調べたことをもとに、「沖繩クイズ」を作り、クイズ大会を行う。	<input type="checkbox"/> 意外だったこと、興味をもったこと、疑問をもったことなどを列挙させる。日本列島社会の多様性に気づく。 <input type="checkbox"/> インターネットで参加し、探求を体験させるとともに、7つのテーマに関する情報をさらに収集させる。 <input type="checkbox"/> クイズを通して、調べたことを確認し合う。調べたことは「事実」が多いことに気づかせる。
(3) 探求2	<input type="checkbox"/> 調べた「事実」の背景や理由を、沖繩の歴史を軸に、教師の説明と提示する資料とにより追求する。	<input type="checkbox"/> 教師の「説明」を通して、探求を追体験させる。
(4) まとめ	<input type="checkbox"/> これまでの学習を、本質的概念から振り返る <input type="checkbox"/> 「沖繩から学んだ」ことについて書く。	<input type="checkbox"/> 世界の本質的概念に気づかせる。

3. 「沖縄から学ぶ」の実践

単元「沖縄から学ぶ」は4月～10月初めまで、16時間の計画で実施した。

(1) 「探求の準備」

小単元(1)は、沖縄探求のための準備としての基礎的知識の習得の段階であり、沖縄の地理と歴史について、基礎的な学習を行った。地理的な内容については、白地図を使って作業学習を行い、東シナ海における沖縄諸島・先島諸島の位置と沖縄本島の地理的な特色をつかませた。また、歴史的な内容については、高良倉吉の「琉球・沖縄史」の時期区分に基づいて、時期区分年表を作成させ、それぞれの時期ごとにNHK人間講座「沖縄からアジアを見る」のビデオを視聴し、各時代のイメージをふくらませた。これにより「地球・沖縄史」の節目をおさえるとともに、今まで学習した日本の歴史とは別の歴史の存在に気づくことを期待した。

(2) 「探求Ⅰ」

小単元(2)は、いよいよ探求の開始である。沖縄に関して「興味がわくこと」「意外なこと」「疑問がわくこと」などについて、年度初めに(財)沖縄コンベンションビューローにお願いし手に入れた修学旅行用の資料を手がかりに探させ、調べ学習を行った。7つのテーマ領域は、生徒が調べやすいように、資料の目次を参考にして設定させた。

さらに5月末からは、インターネットで『アイランド・クエストIN沖縄&屋久島』にも参加した。『アイランド・クエスト』は、『沖縄の長寿の秘密』を追求するものであり、それに参加することによって、インターネットを通じたバーチャルな探求の体験を期待した。5月25日～6月2日という期間限定であったため、当初の期待のようにはいかなかったが、そのホームページには沖縄の情報があふれており、それへのアク

(1) 自然	①海は青く美しい。 ②川は短い。 ③160あまりの島があり、有人離島は39ある。 ④最南端の波照間島、最西端の与那国島。 ⑤沖縄本島の山岳地帯は北部にかたよっている。 ⑥亜熱帯の動・植物が見られ、本島北部や西表島などには稀少動物が生息している。 ⑦開発による赤土の流出で、海洋汚染が広がっている。
(2) 伝統文化	①歌と踊りが盛んで、三線はなくてはならない楽器である。 ②中国や東南アジアとの交流から、焼物や織物などの伝統工芸品が作られるようになった。 ③沖縄の古典音楽やウチナー口を取り入れた音楽が流行している。 ④沖縄の言葉の母音は「アイウイウ」の3母音で、エ→イ、オ→ウに変換される。
(3) 食文化	①医食同源の考え方で、料理が作られてきた。(「ごちそうさま」→「クスイナタン」) ②豚肉・昆布・豆腐・緑黄色野菜などの食材がよく使われる。 (ゴーヤチャンプル、ラフテー、ドルワカン、昆布イリチ、豆腐ようなど) ③昔から、ウコンがつくられてきた。 ④米だけを使い独自の製法でつくる地酒の泡盛がある。
(4) 歴史	①15世紀初め琉球王国が成立し、14世紀末～16世紀には、中継貿易国家として栄えた。 ②1609年、島津の琉球侵入により、日中両属の状況におかれることになった。 ③1879年、琉球処分によって、沖縄県として近代日本の一員となった。 ④戦後アメリカの統治下に置かれた沖縄は、日本から切り離され、1972年まで占領は続いた。
(5) 平和	①沖縄戦は、国内唯一の地上戦で、本東南部を中心に行われた。 ②多くの一般住民が沖縄戦に巻き込まれ、戦闘以外でも飢えやマラリアで命を失った。 ③沖縄には、現在もおお全国の米軍専用施設の75%が集中し、それは県土の11%に及んでいる。
(6) 産業	①サービス業を中心とする第三次産業の比重が高い。 ②第二次産業の中で建設業の比重が非常に高い。 ③現在、失業率が非常に高い。 ④農業はサトウキビが中心であるが、野菜や花卉が寒冷期の供給地として伸びて来ている。
(7) 暮らし	①沖縄の市外局番は、宮崎県と同じ098である。 ②沖縄の住宅の屋上には貯水タンクがある。 ③沖縄県の県民所得は全国平均の7割位である。 ④沖縄県の人口増加は著しい。(自然増加率：7%) ⑤沖縄本島には南北問題がある。

セスにより、7つのテーマ領域に関する多くの情報を収集することができた。このようにして収集した情報をテーマ領域ごとにまとめたものが、前頁の表である。それぞれが収集した情報はクイズの形に作り直し、「沖縄クイズ大会」でクイズを「出す-答える」という形で、収集した情報を報告し合った。

表にまとめられた情報を見ても明らかなように、収集された情報は、断片的な事実的知識ばかりである。しかし、これは当初の計画の通りであり、小単元(2)で筆者が生徒に課したことは、『興味がわくこと』、『意外なこと』、『疑問がわくこと』などを探す」ということであり、初めから小単元(2)は学習への動機づけと情報収集の段階として位置づけていた。こうして動機づけられ、収集された情報(事実的知識)をもとに、さらに小単元(3)の探求が続く。

(3)「探求2」

小単元(3)は、表の諸情報(事実的知識)を関連づけ、学習テーマを焦点化して探求する段階である。本来の総合的な学習では、収集した情報を教師の支援により生徒自身がさらに探求するわけであろうが、本実践では、筆者の探求を筆者の「説明」と提示する資料により生徒に追体験させる形をとった。具体的な学習は、折から開催されることになっていた九州・沖縄サミットと結びつけ、「九州・沖縄サミット首脳会合は、琉球を統一しえなかった北山の故地で開催され、その会場は“万国津梁館”と名づけられている」という情報を糸口に、沖縄の歴史を軸にして展開した。小単元(3)の「説明」による探求は、次のような学習テーマで展開した。

- I. 三山時代と沖縄サミット
- II. 万国津梁の国「琉球王国」
- III. 薩摩の支配と沖縄の文化・産業の原型
- IV. 沖縄県のあゆみ

それぞれの学習テーマは、次に示すように前頁の表の情報(事実的知識)と関連している。

I	(4)-①	(1)-⑤⑥⑦, (5)-①③, (6)-①② 7-②⑤
II	(4)-①	(2)-①②, 3-④
III	(4)-②	(1)-①, (3)-②③④, (6)-④ (7)-③
IV	(4)-③④	(1)-③④, (5)-①②③, (7)-①④

(4)「まとめ」

小単元(4)は、学習のまとめの段階である。ここでは、学習した内容の普遍化をはかり、学習の感想を書かせて、学習のまとめとしようとした。学習内容の普遍化は、世界の本質的な問題概念から学習内容を捉え直し、「沖縄から世界を学ぼう」とするものであった。世界の本質的な問題概念としては、大津和子のグローバル教育の所論から、カリキュラム構成の中心概念を参考に、「文化」「共生」「変化」「稀少性」などを設定した。しかし、小単元(4)に確保できる時間数と本質的な課題概念から学習内容を捉え直す難しさを勘案し、実践の途中段階で、学習内容の普遍化は割愛することにした。学習内容の普遍化の方法については、さらに検討しなければならない課題である。

「沖縄から学ぶ」を学習した生徒の感想については、ある生徒は次のように書いている。

今まで「沖縄」というと、サンゴ礁、ハブ、たまに新聞で取り上げられている米軍基地などが、頭に浮かんでくるだけだった。そこに住んでいる人々の顔やくらしぶりは見えなかったし、「沖縄に歴史がある」ということにもきがつかなかった。

この学習によって、沖縄にグスク時代があり、琉球王国があったことを実感できた。意外だったのは、中世の琉球王国が東洋一の中継貿易国家であったということだ。ボルネオ島と同じくらいの大きさで地図に描かれているのを見ると、それほど大きい存在であったことがわかる。

無理やり日本に統合されてから130年、太平洋戦争では日本で唯一地上戦も行われ、その後27年間も米軍の統治を受け、今でも日本国内の半分以上の米軍施設を負っている。沖縄の人々に何と書いていいかわからない。

また、ある生徒は次のように書いている。

この学習で一番印象深かったことは、九州・沖縄サミットの首脳会合が沖縄北部の名護市で開かれたことです。東京以外の所で開かれたことのなかったサミットが、なぜ沖縄、それも開発の遅れた本島北部で開かれることになったのか。その裏にあるらしい沖縄の事情に、大変驚きました。それにしても名護市に住んでいる人たちは、どう思っているのでしょうか。沖縄の人たちの思いを聞いてみたいです。

今まで一通り日本の歴史を勉強してきたつもりだったが、この沖縄の学習では驚くことや初めて知ることが多く、日本について本当に勉強していなかったなと思いました。まだアイヌ(北海道)についても勉強しないと、本当に日本について学習したとは言えない

いけど、本当の日本の歴史を学ぶ第一歩になったと思います。

生徒の感想には、今まで知らなかった沖縄の事実についての驚きを書いたものが多かったが、さらにそこから一步進んで、今までの自己の認識を批判的に振り返るもの、また、その中で他者としての沖縄と自己との関係に呻吟している様子をにじませているものなども見られた。「自己の在り方や行き方の自覚」を、自己の空間的な配置という観点から深める一つの契機となったのではないかと判断している。

4. おわりに

本実践は、中学3年生の総合的な学習の時間「LIFE」の社会科教師が担当する選択講座の一つとして行った。「総合的な学習の時間」が登場する以前から、社会科は本来“総合的”な教科であった。その社会科の教師が行った「総合的な学習」の実践として、「これは総合的な学習ではない」という批判を受けるかもしれない。それは当然のことであって、(社会科の授業としては、少々“決断”の世界に足を踏み入れ過ぎてはいるが、)本実践は総合的なアプローチによる社会科の授業である。

「総合的な学習」とは何なのか、法制的に規定された「総合的な学習」を超える答えを、実践しつつ立ち止まりながら教壇から考えていきたい。

なお、「沖縄から学ぶ」の実践にあたっては、以下の文献やホームページを参考にした。

- 高良倉吉『琉球王国』岩波新書, 1993。
- 沖縄県教育委員会編『高校生のための沖縄の歴史』1994。
- 新城俊昭『高等学校 琉球・沖縄史』1997。
- 新崎盛暉『沖縄を知る/日本を知る』部落開放研究所, 1997。
- 高良倉吉『アジアのなかの琉球王国』吉川弘文館, 1998。
- 太田昌秀『醜い日本人』岩波現代文庫, 2000。
- 浜下武志『沖縄入門-アジアをつなぐ海域構想』ちくま新書, 2000。
- 鎌田慧『日本列島を往く(1)国境の島々』岩波現代文庫, 2000。
- 網野善彦『日本の歴史第00巻』講談社, 2000。
- NHK人間講座テキスト『沖縄からアジアを見る』2000年4月～6月期。
- アイランド・クエスト実行委員会『アイランド・クエスト学習活用ガイド』2000。
- 朝日新聞N I E『ののんちゃんの自由研究』第15弾, 2000。

- アイランド・クエスト公式ホームページ
<http://www.wnn.or.jp/wnn-s/quest/>
- 九州・沖縄サミット公式ホームページ
<http://www.g8kyusyuu-okinawa.go.jp>